

よさを引き出し本物に  
全校で取り組むポジティブ行動支援  
揖斐川町立揖斐小学校

「ポジティブ行動支援」という言葉をご存知でしょうか。個々を取り巻く環境をポジティブに整え支援することによって、望ましい行動を強化していく仕組みで、応用行動分析学に基づいた理論によるものです。その考え方を全職員が理解し、学校全体で取り組むものをSWPBS (School Wide Positive Behavior Support) といい、揖斐小学校では、昨年度からこの実践に取り組んでいます。

今年度は、近畿大学の対准教授をアドバイザーとしてお迎えし、研修と実践を並行して取り組んできました。SWPBSで大切にしているのは、望ましい行動を共通理解した上で、それを引き出すためのきっかけや環境づくりをし、できたことを価値付けることです。多くの学校でも、各種のキャンペーンや「よいこと見つけ」といった活動は仕組まれますが、それを共通の土台で取り組んだり、全職員が一体となって支援にあたりたりすることで、学校としての大きなうねりを創り出していくところが、SWPBSの本質です。

1学期には、学級毎に学期末の取組を行いました。また2学期には、児童会が中心となって運動会の取組や人権週間の取組を行いました。いずれも、



全職員で話し合っって作成した「望ましい行動表」に基づいて、子どもたちが大切にしたい内容を考えて取り組みました。取組の後には全校でその成果を確認し合う場を設け、互いに頑張りを認め合います。それを繰り返すことで、子どもたちは自分たちに自信がもてるようになります。

また、SWPBSを進める中で、子どもの捉え方や声のかけ方など職員の意識が変わり、できないことや気になることではなく、できたことや頑張ろうとする過程に目が向くようになりました。これが、子どもと職員の絆づくりにもつながります。

前向きな気持ちと温かさがあふれる揖斐小学校は、目指す学校像として掲げる「いきいき揖斐小 居心地のよい学校」に一歩ずつ近づいています。

関わり合うことで成長するやぎっ子  
組合立養基小学校

授業中、難しい問題があると「先生、相談していいですか。」という声が自然に上がり、高学年はホワイトボードを真ん中に置き、思いついたことを書き始めます。低学年は近くの子と話します。そのうち「分かったかも!」という考え方もあるんだ。」と嬉しそうな声が聞こえ、自席に戻りノートに黙々と学びを書く、そんな授業が養基小のスタンダードです。



【異学年交流】

養基小では、遊びはもちろん、学習でも他学年とたっぷり関わっています。

①演技の合同練習

運動会で3・4年は「よっちょれ」5・6年は「ソーラン」を踊ることが伝統となっており、楽しみにしている子が多いです。最初は上級生が手本を見せ、下の学年の子がおそろいのおそろい踊ります。すると「自信をもって」「もっと手を伸ばして」と励ましがやアドバイザーの声がかかります。上級生の力強い

踊りに近づこう、自主練習にも励みます。

②学びの交流

1・2年生が図工や生活科でおもちゃを作り、おもちやランドにお互いを招待しています。



総合的な学習では、3月に下の学年に学びを伝えるのが恒例です。絵やグラフ、写真を示しながら、分かったことや願いを話します。相手に伝わるように、練習や工夫を重ねて当日を迎えます。

【地域や保護者の方から学ぶ】

①虫博士

毎年1年生は、地域の「虫博士」から昆虫とふれあう楽しさを学びます。虫の捕獲は初体験の児童も多く、「やったあ、捕まえた!」と歓声をあげ、虫かごにそっと入れ、大事に持ち帰ります。

②養基小応援ボランティア

行事での見守りだけでなく、家庭科や図工、野菜作りの作業等、多くの方が参加してください。もう少しでできるよ。「がんばったね!」と認めや励ましの言葉に包まれて、子供たちは伸び伸びと活動することができま



# みんなで考えよう! これからの学校教育の在り方。

## 「中学生と町長が語る会」(第2部)町政についての意見交換 ～これからの揖斐川町に必要な学校教育について提言します～

「中学生と町長が語る会」(12月16日)では、中学生がよりよい町づくりについて提言し、町長・関係部局長と意見交換を行いました。ここでは、将来を見据えた学校教育の在り方に関する中学生の提言と教育委員会としての方針や施策について紹介します。

### 《提言Ⅰ》「小中学校の黒板をホワイトボードに変えてはどうか。」

・ホワイトボードの利便性を活かした授業が可能。県立高校ではすべての普通教室に導入されている。

【教育長の回答】以下の利点があることから、移動式のホワイトボードの導入について検討する。

#### ①視覚的な情報共有

・授業中に出た考えや伝えたいことなどを視覚的に提示できる。また、プロジェクターによる投影も見やすい。

#### ②意見やアイデアの整理

・意見やアイデアをその場で集約し、整理することに役立ち、構造的に書きまとめることができるため、情報を俯瞰しやすくなる。

#### ③管理の容易さ、健康に安心

・ホワイトボードは、黒板に比べて汚れにくく、手が汚れる心配やアレルギーへの影響も少ない。

質問事項	区分	小学校(6年生)		中学校(3年生)	
		A	B	A	B
地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか。	揖斐川町	30.0%	50.0%	40.4%	47.8%
	岐阜県	37.1%	47.5%	29.0%	49.8%
	全国	36.8%	46.7%	26.4%	49.7%

### 《提言Ⅱ》「揖斐川町に関する授業をもっと増やしてほしい。」

・地域のことをより深く学ぶことは社会をよりよくすることにつながる。  
【教育長の回答】「ふるさと学習」を引き続き「いびがわ」の未来社会を考える探究学習として充実させていく。

#### ①現状(全国調査の結果分析より)

町内の小中学生には、地域や社会をよりよくしようと考え意識が高い。

\*上記表中の数値は回答した児童生徒の割合を示す。  
A「そう思う」  
B「概ねそう思う」

#### ②今後の方針

・探究学習は、生きて働く学力を育成する問題解決的な学習であり、知識を一方的に教え込む教育から、子どもが主体的に学びを深める教育へと転換することが期待できる。

【質問Ⅰ】「中学生が今からできること、経験してほしいことは何か。」  
【教育長の回答】様々な学びを通して、自分を見失わず、社会の一員として生きる力を身に付けてほしい。

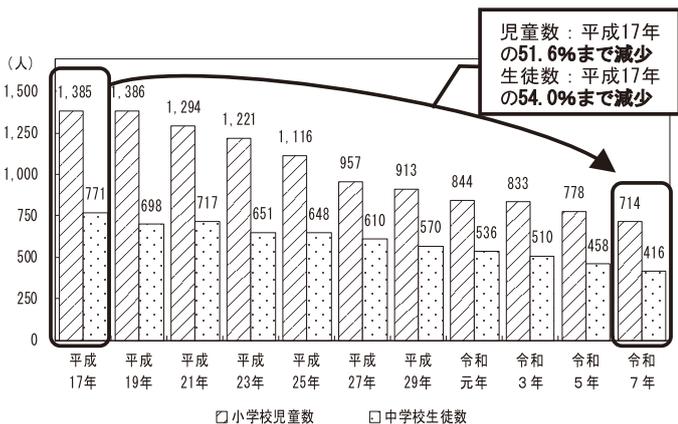
・様々な価値観をもった、信頼できる人たちと関わり、ものの見方や考え方を広げ、深める。  
・興味関心を広げ、やってみたいことや打ち込みたいことを探し、自分で挑戦する。

・生徒会活動、ボランティア活動、地域活動等に参加し、よりよい学校・生活・社会とは何かを考えながらその実現に向けて行動する。  
・将来の夢や目標をつくり、自分の個性や能力を伸ばす。  
・家族とのふれあいを大切にし、家庭での自分の役割をしっかりと果たす。



<これからの学校教育についての意見交換>

《質問Ⅱ》「今後の生徒数の減少を前提にどのような教育をするのか。」



【教育長の回答】小規模校のよさを活かした、地域とともにある学校づくりを推進する。

・地域社会との関係を大切にし、地域の特色を活かした教育活動を行う。  
・小規模ならではの機動性、柔軟性を活かした学校間交流を行い、より多くの仲間と学ぶ機会をつくる。  
・児童生徒相互の協働活動やグループワーク等を取り入れ、異年齢集団での学びの充実を図る。  
・一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握し、個別指導を含めたきめ細かな指導を行う。